2017 年 2 月 13 日 執行役員会･提出資料
2 月 14 日 常任幹事会･協議事項

民進プレスの内容刷新と月刊化について（案）

広報局長・大塚耕平

政党にとって「選挙」「政策」「広報」が三大機能であり、「広報」は「政策」等を有権者に伝え、「選挙」に資するものでなければならない。

また、有権者と政党を取り巻く情報環境の急速な変化に対応し、広報媒体（機関紙、ＷＥＢサイト等）の訴求対象や特性に応じ、情報発信を効果的、効率的、弾力的に行う必要がある。

こうした中で、昨秋来、広報媒体ごとの今日に至る経緯、現状、特性等を精査・検討しつつ、媒体ごとのあり方や役割分担、編集・制作体制等についての改善案を検討し、可能なことから染手してきた。

今回、その一環として、機関紙「民進プレス」の内容刷新及び月刊化に着手することとした。

なお、ＷＥＢサイト等、他の媒体のあり方、改善案の検討等は引き続き行う。

１　新しい民進プレスの役割

○　媒体の特性を踏まえ、「速報性」の必要な対応はＷＥＢ等に集約していくことが効果的。

○　一方、「民進プレス」は、読者に届くまでのリードタイムが長いこと等の特性等を鑑み、情報の深堀りやまとめ読みを可能にする媒体として活用し、党の政策・主張・活動や、日本の政治の課題がわかる情報紙として進化させる。

○　編集方針は、読者の関心・興味を誘い、「読んで貰える機関紙」として、読者（党員等）が、党の情報や主張・政策を他の有権者に説明する、伝える際に有効活用できる紙面内容を追求する。

○　さらには、固定的な読者（党員等）以外にも関心を持ってもらうために、有権者や若者にとって、少しでも抵抗感の少ない（ハードルの低い）紙面の体裁や構成を追求する。

○　読者（党員等）との双方向の紙面づくりをめざして、読者モニター制度の設置を検討し、その意見を反映し、紙面改善に継続的に取り組んでいく。

２　機関紙紙面の大幅刷新

○　（紙面改善）期待される連載記事の掲載や、毎回必ず特集記事を掲載して、党の政策や主張に関して、ＷＥＢサイトとは違った「深堀り・まとめ読み」ができる紙面構成を行い、各分野の課題や政策・選挙・組織活動などを「記録記事」ではなく、読んで貰える紙面を追求していく。

○　（デザイン改善）新たな読者層の開拓をめざして、若い年代層の読者等にも親しみを持ってもらえるよう、デザインを一新する。

３　発行回数の見直し及び機関紙購読料の据え置きについて

○　上記方針に資するよう、発行回数を月２回から月１回に変更する（編集方針に沿って、しっかり作り込むという趣旨）。

○　現行の編集体制を強化し、上記の紙面内容の大幅刷新を図るために、現在の広報局スタッフに加え、外部プロのマンパワーも活用する。

○　そのため、機関紙購読料は変更せず、送料込み年間購読料３０００円としつつ、その中で、外部マンパワーのコスト等を捻出し、機関紙の制作予算そのものは据え置く。

４　２０１７年党大会で準備号を配布

○　紙面刷新後をイメージした準備号を３月１２日の定期党大会で参加者に配布して、民進プレスの今後の刷新イメージ・内容等に関する意見を集約し、紙面改善に反映していく。

（参考）

○　広報体制全般については、現状、①「広報企画」的な機能を上記外部プロも加えた体制での試行的運用をスタートしているほか、②その下での機関紙を含めた媒体ごとの対応を進めている。加えて、③ネット・ＳＮＳに対してはメタデータ分析・ポジティブ対策・ネガティブ対策を分別した対応を試行中。

○　なお、それぞれの媒体等への対応を委託している事業者との契約内容、管理体制についても、順次、適正化を進めている。